

目次

- 2 **巻頭エッセイ**
怎样才能学好外语
- 3 **中国語の学び方**
インターネット時代の学修法
- 4 **中国語でどういう？**
トランプをして遊ぼう
- 5 **ことば雑記**
“寿司” “料理”
- 6 **看图学惯用语**
絵で見る慣用語(14)
- 8 **紛らわしい文法表現**
“X比YW”と“跟X比,...”(1)
- 10 **過去問に学ぶ**
4級日文中訳問題ワンポイント・アドバイス
- 12 **読者の広場**
準4級・4級に合格して
“没有”はméiyǒu? méiyóu?

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

怎样才能学好外语

日本中国語検定協会評議員・沖縄大学 王志英

今日本の大学で中国語を教えています、中国語を勉強している日本人の大学生を見て、昔自分が日本語を勉強していた時のことを思い出します。

80年代の中国の大学は授業料、寮費などはすべて無料でした。毎日朝6時ごろに起床し、グラウンドでジョギングをし、その後教科書の本文を大声出して、朗読しました。8時から12時まで授業で、昼ごはん、昼寝の時間の後に午後2時から4時ごろまで授業で、4時ごろから6時の間はスポーツなどをして、晩御飯を食べて、2人でペアを組んで、散歩しながら外国語で会話の練習をしました。その後また夜10時まで図書館か、教室で“**晩自習**”をしました。10時半に寮は消灯しますが、消灯した後にトイレだけは電気が付いていて、トイレで小さな声で本を読んだりしました。夜寝るとき皆さんはそれぞれ枕の横にテープレコーダーを置いてあって、ぐっすり寝るまでに日本語のテープを聞き続けました。日本語のテープは私たちの“**催眠曲**”でした。

当時中国の大学は勉強一筋でした。アルバイトをしません。恋愛をしてはいけません。女性はパーマをかけてはいけませんでした。朝起きたら、寮→食堂→教室、昼になると、教室→食堂→寮、午後になると、寮→教室→食堂→教室か図書館、最後は寮に戻ってから一日は終わります。寮を出るとき、いつも手に持っていたのは“**书包**”，“**水壶**”，“**餐具**”という三点セットでした。4年間の生活は以上の繰り返しでした。単純すぎる生活でしたが、勉強に集中できて、外国語のレベルがどんどん上達していきました。

教材は教科書以外に、“**外教**”が日本で録画した「昔話」，「紅白歌合戦」などのビデオを見せてくれました。当時皆さんは日本の「昔話」大好きで、「昔話」を通して、日本語の文化や諺をたくさん覚えることができて、「鬼も18，番茶も出花」など今でも忘れられません。「紅白歌合戦」を通して、日本の演歌を好きになって、演歌から日本語を覚えることができました。

日本人の観光客がよく大学に訪れて、交流し、会話の練習をしました。また、日本の「ペンクラブ」に登録して、日本人の方と文通をしました。時に週末になると、駅や観光地へ行行って、日本人らしい観光客を見つけて、会話の練習をしました。

外国へ留学に行かなくても、有効な勉強方法と努力によって、外国語をマスターすることもできます。勉強方法は人によって、やり方は様々ですが、80年代の外国語の勉強方法をまとめますと、以下になります。

1. CDを聞き、大声で朗読し、綺麗な発音を真似し、暗記する。
2. 間違いを恐れずにとにかく言ってみる。
3. 上手に相手に質問し、コミュニケーションを図る。
4. 外国語で物事を考え、外国語で独り言を言う。
5. 外国語で日記などを書いてみる。
6. 趣味を通して外国語を覚える。

インターネット時代の学修法

県立広島大学 侯仁鋒

インターネット時代では、中国語学習も例外ではなく加速されているように感じている方がたくさんいらっしゃると思う。とはいえ、変化がいくら速くなくても、やはり流されずに変わらないものがある。中国語学習に限って言えば、基本語彙、基本文法はそれであろう。言うまでもなく中検4級・3級の語彙と文法もそれに当たるだろう。一方、学修方法は、変わるものとして絶えず登場してきている。その一つとして、昨今よく耳にしているAIによる機械翻訳が挙げられる。それによる翻訳が完璧に出来上がる日はまだまだ遠いかもしれないが、それを初級・中級レベルの学修支援ツールとして利用すれば、学修にとっては非常に有効であると思われる。ここで一つ紹介させていただくと、「腾讯翻译君」(<http://fanyi.qq.com/>)は、それであり、無料でオンラインでも利用できるし、そのアプリをダウンロードしてインストールすればスマホでも利用できる。入力は音声でもできる。ランダムに中国語検定4級の和文中訳をやってみた結果、以下の通りである。

70回

- (1)それらの本もみな図書館のです。那些书都是图书馆的。
- (2)姉のカメラはあまり安くありません。姐姐的照相机不太便宜。
- (3)ここでタバコを吸ってはいけません。这里不准吸烟。
- (4)お父様は今年おいくつになりましたか。令尊今年多大了？
- (5)オーバーを着ているあの人はどなたですか。穿着大衣的那个人是谁？

71回

- (1)彼の家は会社から遠いですか。他家离公司远吗？
- (2)私は毎日自転車で会社に行く。我每天骑自行车去公司。
- (3)私はあなたに質問を一つしたい。我想问你一个问题。
- (4)彼は新聞を読むのがとても好きです。他很喜欢看报纸。
- (5)あなたは明朝何時に出発しますか。你明天早上几点出发？

ご覧の通り、70回の(1)だけは、その「も」が訳文に反映されていない。その他は正解であろう。更に72回、61回～63回、80回～82回、計7回やってみた。正解率は100%である。

お薦めの理由としては、和文中訳は初級学習者の苦手な部分で、これにより自主的で十分な練習が期待される。また、教育機関で大々的に推し進めているアクティブラーニングとして、授業外の学修を充実させる一助ともなりうる。特に社会人の方はそばに常に先生がいないので、これを利用すれば随時にサポートしてくれる。

使い方としては、まず自分で訳して、それから翻訳君にやってもらい、対照してみればよからうと思う。中検受験支援として本学では活用している。

トランプをして遊ぼう

日本中国語検定協会副理事長・中京大学 張 勤

理屈はわかるが、言う時にいつも戸惑いを感じる日本語の一つに「トランプをして遊ぶ」のような表現がある。ついつい、中国語の“玩儿扑克”をそのまま日本語にして「トランプを遊ぶ」と言ってしまう。

日本語では、「トランプ」は遊べず、「する」ものであって、「トランプをして」いううちに、遊び心を満足させるなんて、なかなか奥ゆかしいものではないか。それに対して、中国語はそれこそストレートに“玩儿扑克”とトランプそのものを遊んでしまうのだから、長閑さがない。

感想はさておき、日本語は本当に「～を遊ぶ」ないのか。ネットで用例を漁ってみると、「～を遊ぶ」の用例が数多く出てきて、けっこう生産的な言い方のようだ。

- (1)街を遊ぶ・アミューズメント（観光宣伝のサイト）
- (2)歴史を遊ぶ（雑誌特集タイトル）
- (3)生活を遊ぶ家（ハウスメールのサイト）

しかし、これらの例を中国語にそのまま訳したら、“玩儿街头”“玩儿历史”“玩儿生活”となり、不自然だ。

すなわち、中国語で言う“玩儿扑克”は日本語では「トランプを遊ぶ」にならず、仕返しのように、日本語で言う「街を遊ぶ」も中国語では“玩儿街头”にならない。

“玩儿扑克”の“玩儿（遊ぶ）”と「街を遊ぶ」の「遊ぶ（玩儿）」の言い換えを考えてみれば、同じ“玩儿”・“遊ぶ”でも意味が異なっていることに気づく。“玩儿扑克”は“打扑克”と言い換えられるが、“玩儿扑克”と言ったほうは、「時間潰しのために」トランプをするという意味が出てくる。それに対して「街を遊ぶ」は「街を楽しむ」と言い換えることができ、ここの「遊ぶ」は「楽しむ」という意味だ。

となれば、時間を潰しに何かをして遊ぶことは、中国語で“玩儿～”と言えるが、日本語なら「～をして遊ぶ」と言うことになる、それに対して、何かを楽しむ場合は、日本語では「～を遊ぶ」と言えるが、中国語はそうには言いにくい、ということになりそうだ。しかし、現実はその簡単には整理できない。次のような例がいっぱいあるからだ。

- (4)玩儿文玩手串（文物・プレスレットを楽しむ）
- (5)玩儿集邮（切手収集を楽しむ）

これらの例は「暇つぶしのために遊ぶ」意味合いもあるが、「楽しむ」ことが中心となろう。そこで中国語でも「楽しむ」という意味は“玩儿～”と言えるのだ。

中国語で“玩儿街头”と言えないのは、(1)～(3)の「街」「歴史」「生活」が楽しむことの対象物というよりも、範囲・範疇を指しているからである。こういう場合、中国語は“漫游街头”“畅游历史”“享受生活”などと言うのが自然であろう。

“寿司”“料理”

日本中国語検定協会理事長 上野恵司

すし。押しすし、握りすし、巻きすし、散らしすしなどいろいろあるのは、ご存じのとおり。鮓、鮓。寿司は当て字。すっぱいの意の形容詞「酸し」が名詞化したものとか。

今日の中国語ではもっぱら“寿司”が使われる。いつ頃から使われるようになったかは明らかではないが(“网盲”のわたくしが知らないだけで、インターネットのお世話になれば判明するのかもしれないが)、《現代汉语词典》に収められたのは2012年6月刊の第6版からである。

同辞典によると、“寿司”は日本語から入った名詞で、

日本料理中的一种食品，主要材料是用醋调过味的冷饭，再加上鱼虾、蔬菜或鸡蛋等配料，平铺在紫菜片上卷成条，切成小段食用。(日本料理の食品の一種で、主な材料は酢をませ合わせた冷めた飯で、魚介類や野菜、鶏卵などを取り合わせ、干しのりの上に平らにのせて長く巻き、短く切って食べる。)

というものである。

言うまでもなく、これは「巻きすし」の説明である。地方差や個人差があるにしても、今日、わたくしたちが「すし」と言う場合、まず思い浮かぶのは江戸前の「握りすし」ではないだろうか。「すしでも食いに行こうか」と誘われて付いて行ったら巻きすしであったなんてことは、まずありえない。留学生や日本在住の中国人に、「すしは好きですか」と聞く場合の「すし」も握りすしについて聞いているのであり、聞かれた方もそう受け取っているはずである。

日中の往来がこれほど盛んで、中国でも、大都市では「日本料理」の看板を掲げたレストランが至る所に見られ、そこでの人気メニューは、まず「すし」と「刺身」であるはずなのに、中国を代表する辞典のすし“寿司”の説明が上のとおりであるのは、いささかさみしい。

ちなみに、改革開放直後の1979、80年頃、わたくしが住んでいた北京の友誼賓館で日本人向けに「すし」なる食べ物が出たが、これはたっぷり酢をきかせた「散らしすし」ふうのもので、メニューには“四喜飯”とめでたそうな字が当てられていた。

付記：上の《現代汉语词典》の“寿司”の説明に“日本料理”という語が使われているが、“料理”という中国語が「こしらえた食べ物」の意で使われるようになったのは比較的新しく、《現代汉语词典》に収められたのは2005年6月の第5版からである。今日ではかなり広く使われているが、まだ“日本料理”とか“韓国料理”，あるいは少数民族の料理のように、外来のエスニックな料理について使われるのが一般のようである。

絵で見る慣用語 (14)

絵・張恢

文・『中国語の環』編集室



硬碰硬 yìng pèng yìng

硬い物と硬い物とがぶつかりあう；強硬な態度に対して強硬な態度で臨む。双方硬碰硬地对峙着。双方力づくで張り合っている。
跟他来个硬碰硬。彼ととことんやりあう。



有出息 yǒu chūxi

(将来ものになるという) 見込みがある；前途有望である。
这孩子很有出息。この子は将来が楽しみだ。
他真没有出息。彼は本当に見込みがない。



有两下子 yǒu liǎngxiàzi

なかなかの腕前・技量を有している；腕が立つ。なかなかやる。
他游泳也有两下子。彼は水泳の方もなかなかのものだ。



有背景 yǒu bèijǐng

背景がある；背後に後ろ盾がついている。黒幕が控えている。
他很有背景，千万别惹他。彼には有力な後ろ盾がついているから、絶対に怒らせてはいかん。



有嚼头 yǒu jiáotou

咀嚼（そしゃく）に耐える；深い味わいがある。
他的这句话有嚼头，你仔细体会吧。彼のこのことばは味わい深い，しっかり受け止めたまえ。



有墨水 yǒu mòshuǐ

学問がある。
他肚子里还有点儿墨水儿。彼はあれでもいささか学問がある。
肚里一点儿墨水也没有。まったく学がない。



有眼光 yǒu yǎnguāng

見る目がある；目が利く。眼識が高い。
眼力がある。

他对古玩很有眼光。彼は骨董になかなか目が利く。



栽跟头 zāi gēntou

もんどりを打って転がる；つまづく。
失敗する。醜態を演じる。

路太滑，小心栽跟头。道がとても滑りやすいから転ばないように。

他早晚要栽跟头。彼は遅かれ早かれボロを出すだろう。



占便宜 zhàn piányi

(不正な手段で) 利益を得る。うまい汁を吸う。また、有利である意にも。
他占了我的便宜。彼はわたしを食物にした。

你个子高，打篮球占便宜。君は背が高いから、バスケットをするのに得だ。



砸牌子 zá páizi

看板をぶち壊す；信用を台無しにする。
名誉を傷つける。

不能贪小利而砸了公司的牌子。小さな利益を貪って会社の信用を失ってはならない。



摘帽子 zhāi màozi

帽子を脱ぐ；(人物に貼った) レッテルをはがす。汚名をそそぐ。名誉を回復する。

怎么也摘不掉好吃懒做的帽子。どうしても食いしん坊の怠け者という汚名をそそぐことができない。



找靠山 zhǎo kàoshān

頼りになる人を探す；後ろ盾になってもらう。

找个有权有势的人做自己的靠山。権勢のある人物を見つけて自分の後ろ盾になってもらう。

“X比YW”と“跟X比,…”(1)

日本中国語検定協会理事・文京学院大学 魯 曉琨

比較文の基本形である“X比YW”は日本語に訳すと「XはYよりWだ」となりますが、反対に日本語の「XはYよりWだ」は“X比YW”と訳せるものもあれば、訳せないものもあります。

例えば、

(1)私は彼よりミカンが好きだ。

○我比他喜欢吃橘子。

(2)私はリンゴよりミカンが好きだ。

*我比苹果喜欢吃橘子。

「XはYよりW」では、(1)のタイプは“X比YW”と訳せますが、(2)のタイプは訳せません。しかし、(2)は(3)のように“跟X比,…”という比較表現に訳すことはできます。

(3)跟苹果比,我更喜欢吃橘子。

なぜ、“我比苹果喜欢吃橘子”のような言い方が成り立たないのでしょうか。これは“X比YW”という文型の構成条件の制限によるものです。

“X比YW”はXが比較の主体、Yが比較の対象、Wが比較の結果となります。主体Xと対象Yが構文の中で出現できる位置が限定されています。具体的には以下の四パターンがあります。

1.X(主語)+比Y(状況語)+W

(4)姐姐比妹妹漂亮。(お姉さんは妹より綺麗だ。)

(5)姐姐比哥哥关心我。(姉は兄より私に思いやりを持っている。)

(6)今天比昨天冷。(今日は昨日より寒い。)

(7)南京比上海离北京近。(南京は上海より北京に近い。)

この場合では、Xは主語で、比Yは状況語ではありますが、意味においては、XとYは同じカテゴリーです。

2.X(主語)+V得+比Y+W

(8)他汉语说得比我流利。

(彼は中国語を話すのが私より流暢です。)

ただし、この場合、“他比我汉语说得流利”とすることもできます。

3.主語+X比Y(状況語)+W(述語句)

(9)这孩子 在幼儿园比在家懂事。

(この子は幼稚園にいるときは家にいるときより聞き分けがよい。)

(10)我爸爸对我哥比对我好。

(父は兄に対して私に対するより優しい。)

(11)我小时候比现在喜欢唱歌。

(私は小さいときは今より歌が好きでした。)

(12)你的发言上次比这次好。

(あなたの発言内容は今回より前回のほうがよかった。)

例(9)(10)は二つの前置詞フレーズによる状況語が比べられ、**X比Y**となります。

(11)(12)は二つの時間を表す状況語が比べられ、**X比Y**となります。では、下記の例はどうでしょうか。

(13)我比小时候喜欢唱歌了。

(私は小さいときより歌が好きになりました。)

(14)你的发言比上次好。

(あなたの発言内容は前回よりよくなった。)

実は(13)(14)は(11)(12)と同じ、二つの時間が比べられています。ただ、一つの時間は省略されました。省略した部分を補充すると、(15)(16)となります。

(15)我现在比小时候喜欢唱歌了。

(16)你的发言这次比上次好。

まとめると、(13)(14)のような状況語における「**X (現在) 比 Y (過去)**」は普通「**X (現在)**」は省略できますが、逆に(11)(12)のような「**X (過去) 比 Y (現在)**」は省略できません。

4. 大主語 + 「**X (小主語) + 比 Y (状況語) + W**」

(17)他数学比语文好。(彼は国語より数学ができる。)

この場合はタイプ1の構文が述語として使われただけです。

“**X比YW**”は上の1～4構文でしか成り立ちません。これにより、問題となった(2)は“**X比YW**”の構文条件に含まれないことが分かりました。(2)の「私はリンゴよりミカンが好きだ」では、目的語(動作の受け手)となる“**吃苹果**”と“**吃橘子**”が比べられているが、“**X比YW**”という比較文は目的語(動作の受け手)の比較を表現することはできません。したがって、“**我比苹果喜欢吃橘子**”はもちろん、“**我喜欢吃苹果比吃橘子**”も成り立ちません。そこで、異なった比較文“**跟X比, …**”を登場させ、(2)を“**跟苹果比, 我更喜欢吃橘子**”と訳されました。つまり、“**跟X比, …**”という比較文は“**X比YW**”で表現できない部分をカバーしているわけです。

最後に、中川正之氏が挙げられた面白い例文で締めくくりにしましょう。

(18)私はブタよりも白菜が好きです。

○跟猪肉比, 我更喜欢吃白菜。

この文を“**我比猪肉更喜欢吃白菜**”と訳すと、すでに説明したように、文としては成り立ちません。“**我比猪更喜欢吃白菜**”と訳すと、文としては成り立ちますが、ご本人がブタと比べられるハメになりますよ。

参考文献

中川正之 (1991) 「私はブタよりも白菜が好き」『中国語学習Q&A101』: 133-136

4級日文中訳問題ワンポイント・アドバイス

『中国語の環』編集室

2015年度（第86、87、88回）、2016年度（第89、90、91回）4級筆記問題の第5問の中から15題を選んで問題文と解答例を掲げ、ポイントはどこにあるのか、陥りやすい誤りはどこかなどを簡単に記してみました。2017年度以降の問題については、協会編『中検4級試験問題・解答と解説』（白帝社刊）を参照してください。

- (1)あなたは中国の小説を読んだことがありますか。

你看过中国小说吗？ Nǐ kànguo Zhōngguó xiǎoshuō ma?

ポイント 「…したことがある」は過去の経験を表す“**过**”を動詞の後に付けて表現します。「中国の小説」は“**的**”を用いずに“**中国小说**”とします。

- (2)わたしは毎日食堂で昼ごはんを食べます。

我每天在食堂吃午饭。 Wǒ měi tiān zài shítáng chī wǔfàn.

ポイント 「食堂でごはんを食べる」は「介詞＋目的語＋動詞（句）」の語順に従い、“**在食堂吃午饭**”と言います。“**每天**”は時間を表す状況語ですから、この前に置きます。

- (3)彼はきのうアルバイトに行きませんでした。

他昨天没去打工。 Tā zuótiān méi qù dǎgōng.

ポイント 「行きませんでした」は動作・行為が過去に行われなかったことを言っているので、“**不**”ではなく、“**没**”または“**没有**”を用いて否定します。「アルバイトに行く」は動作の行われる順に並べて“**去打工**”とします。

- (4)わたしはきょう車を運転できません。

我今天不能开车。 Wǒ jīntiān bù néng kāichē.

ポイント 「車の運転ができない」は、運転の技術を持っていないとできないという場合は“**不会**”ですが、何らかの理由でできないという場合は“**不能**”です。

- (5)あなたは飛行機で行きますか、それとも船で行きますか。

你坐飞机去，还是坐船去？ Nǐ zuò fēijī qù, háishi zuò chuán qù?

ポイント 「Aか、それともBか」と聞くには、“**A 还是 B**”の文型を用います。文末に“**吗**”を加えてはいけません。

- (6)彼はちょうど音楽を聴いているところです。

他正在听音乐呢。 Tā zhèngzài tīng yīnyuè ne.

ポイント 「ちょうど…しているところだ」は動詞の前に“**正在**”または“**正**”を用いて表します。通常、文末に“**呢**”を加えます。

- (7)あの問題もあまり難しくありません。

那个问题也不太难。 Nàge wèntí yě bú tài nán.

ポイント 「あまり…でない」「それほど…でない」は“不太…”“不很…”を用いて表します。「…も」の“也”はその前に加えます。

- (8)わたしは友人と一緒にごはんを食べます。

我跟朋友一起吃饭。 Wǒ gēn péngyou yìqǐ chī fàn.

ポイント 「…と一緒に」は“跟…一起”または“跟…一块儿”と表現します。“跟”の代わりに“和”を用いても構いません。

- (9)この料理は安くておいしい。

这个菜又便宜又好吃。 Zhège cài yòu piányi yòu hǎochī.

ポイント 「…でもあり…でもある」は“又…又…”あるいは“既…又…”を用います。「料理」は、“日本料理”“韩国料理”のように、そのまま“料理”(liàolǐ)を用いることもありますが、料理一般をいうには“菜”が適当です。

- (10)わたしは小説を2冊読みました。

我看了两本小说。 Wǒ kànle liǎng běn xiǎoshuō.

ポイント 動作・行為の完了を表す文で、目的語が数量化されている場合は、完了を表す“了”は動詞のすぐ後ろに加えます。文末にさらに“了”を加えてはいけません。

- (11)彼は中国語で手紙を書きます。

他用汉语写信。 Tā yòng Hànyǔ xiě xìn.

ポイント 「…で」と道具や手段を導く介詞は“用”を用います。「中国語」は“汉语”の代わりに“中文”(Zhōngwén)を用いても構いません。

- (12)わたしは絵を描くのが好きです。

我喜欢画画儿。 Wǒ xǐhuan huà huàr.

ポイント 「…するのが好きだ」は“喜欢”+動詞(句)」の形を用います。例：“我喜欢听音乐”(わたしは音楽が好きだ)，“我喜欢打网球”(わたしはテニスが好きだ)。“喜欢”の代わりに“爱”を用いても構いません。

- (13)わたしは先生に質問を1つした。

我问了老师一个问题。 Wǒ wènle lǎoshī yí ge wèntí.

ポイント “问”という動詞は「…に…を」と2つの目的語を取ることができます。語順は間接目的語(…に)が前、直接目的語(…を)が後です。“给”(…に…を与える)，“告诉”(…に…を告げる)なども類例です。

- (14)公園に人が2人います。

公园里有两个人。 Gōngyuán lǐ yǒu liǎng ge rén.

ポイント 「…に…が存在する」という文はいわゆる存現文で、「場所+“有”+ヒトまたはモノ」の語順で表現します。

- (15)わたしたちはどこで買い物をしますか。

我们在哪儿买东西? Wǒmen zài nǎr mǎi dōngxi?

ポイント 「…で…する」は“在”+場所+動詞(句)」の語順で表現します。“哪儿”は疑問詞ですから、文末に“吗”を加えてはいけません。

準4級・4級に合格して

渡邊智子

今まで中国語を一度も学んだことがなかった私が中国語検定合格を目指しました。きっかけは大学2年生の後期の授業で友達に中級中国語の履修を誘われたことです。中国語の授業は初級も履修していなかったので、とても不安でした。しかし実際に授業を受けてみると中国語の文を歌にして覚えていくという楽しい授業でした。歌で覚えるので一日中頭に残るようになりました。初級中国語を履修していなかったのでクラスの皆に置いていかれないか不安になり教科書を毎回暗記し先生に聞いてもらいました。それから先生に中国語検定があることを教えてもらい、検定を受けることを決意しました。

検定3か月前は毎日単語を100個ずつ覚えると決め、沢山CDを聞き沢山書いて覚えめました。2か月前から過去問と問題集を解くようにしました。毎日リスニングの練習をし、筆記の問題を解きました。買った過去問や問題集でわからない部分があった時はすぐ先生に聞きました。2か月間で過去問と問題集を完璧にし、わからない問題は1問もないようにし本番の試験に臨みました。単語を覚えたり問題集を解くことは、最初は大変でしたが中国語検定という目標に向かって実力がどんどんついていくことが実感でき、私は今では中国語を勉強することが大好きになりました。中国語の楽しさを教えてくださった先生に心から感謝しています。

(関東学院大学人間共生学部3年)

“没有”はméiyǒu? méiyóu?

『中国語の環』編集室

問：中検の『解答と解説』で“没有”のピンインがméiyǒuとなっている場合とméiyóuとなっている場合とがありますが、何かルールがあるのですか。

答：中検が依拠している《現代汉语词典》では、所有や存在の否定を表す動詞としての“没有”も、経験や完了の否定を表す副詞としての“没有”も、どちらもméi・yǒuと発音が示されていて、第二音節の“有”は軽声に読んでも非軽声に読んでもよいとしています。

ただし、実際の使われ方を観察していると、どちらかと言えば、動詞の場合は非軽声に近く読まれ、副詞の場合は軽声に近く読まれることが多いようです。

そこで解説に当たっては、学習者の便を考慮して

我没有那本词典。(わたしはその辞書を持っていない。) 動詞méiyǒu

我没有买那本词典。(わたしはその辞書を買っていない。) 副詞méiyóu

のように、“没有”が動詞であるか副詞であるかを区別しています。

ただし、実際の発音が常にそのようにはっきりと区別されているというわけではありません。